

皇帝型権力構造続く

中国の今回の全国人民代表
大会は、江沢民―朱鎔基体制
から胡錦濤―温家宝体制への
移行という政治転換をはっきり
刻印するものと期待されて
いただけに、失望の大きいも
のだった。最大の理由は、昨年
の中国共産党第十六回大会で
党総書記のポストを胡錦濤副
主席に譲り、世代交代を印象
づけておきながら、結局は党
中央軍事委員会主席という党
の最高権力を手放さなかった
江沢民氏が、今回も国家中央
軍事委員会主席を従来通り兼
任することになった権力中枢
の政治構造に求められる。つ
まり党と国家のナンバー・ワ
ンは依然として江沢民主席だ
という皇帝型権力構造に変化
はなく、政治的民主化はもと
より、政治体制改革への道は
ますます遠のいてしまった。

このような江沢民独裁体制
のもとで、過去五年間、経済
の舵を取ってきた朱鎔基首相
への内外の評価は高く、今回
もその引退を称えて中国の海
外向けメディアが大々的に朱
鎔基特集を編んだところ、党

中央からストップがかかった
というニュースは、今日の中
国の政治風土を反映してい
る。天安門事件での抑圧者と
して保守派の頂点に立って
いた李鵬首相に代わった朱鎔基
首相は、国有企業・金融制度

中国新体制が抱える矛盾と危機

市場」と思われ、中国の未来
像をバラ色に鼓吹する論調も
多い。だが、それはあたかも
家のなかの混乱を知らずに、
ピカピカに飾った玄関だけを
覗いて判断するようなもの
で、中国社会の実像とは大き

く乖離している。
実際の中国は、過去二十年
余の経済成長にもかかわらず
ず、一人当たりGDPは、国
全体として見れば、わが国の
約四十分の一の八百米ドル前
後という水準なのである。こ
の数字は亡き鄧小平氏が「四
つの現代化」に当たって掲げ
た二十世紀末までに一人当
りGDP一千米ドルという目

標にも達していない。このよ
うな日中間の経済格差ゆえ
に、中国から日本へ来る不法
難民や留学生を装った出稼ぎ
者が絶えないのであって、こ
の実態こそ中国社会の現実の
反映なのである。

正論



国際社会学者
中嶋 嶺雄

中国は世界不況のなかでひ
とり成長路線を歩みつつあ
り、北京や上海の都市開発も
急ピッチなので、そのような
表面を見れば、中国は「世界
の工場」「二十一世紀の巨大

はさらに拡大し、農業・農村・
農民のいわゆる「三農」問題は
さらに深刻化するであろう。
産業構造の転換を経ずに、
もっぱら外資導入に頼ったこ
の間の放漫成長によって、金
融機関の不良債権はますます

肥大化しつつあり、製品の過
剰な生産と供給が拡大する一
方、都市の失業者や農村の絶
対貧困層の生活実態は著しい
苦境のなかにある。そのうえ
人民の金銭マインドは止めど
なく膨らみ、汚職や腐敗が日
常化していて、中国社会は決
して健康ではない。さらに深
刻な問題は、環境破壊や国土
の砂漠化、水・石油などの資

源の枯渇という社会環境問題
である反面、すでに十三億に
達した人口がさらに増え続け
ていることである。
そのような中国であるの
に、台湾海峡沿岸への短距離
ミサイル配備をはじめとする
軍事力の増強は相変わらず
で、今回の全人代でも対前年
比十%前後も国防費が伸びて
いて、十五年連続で軍事強化
がはかられている。

江氏の権力維持で遠のく政治改革

国際社会で中国の存在感が
高まっているだけに、当面の
イラク問題でも国連安保理常
任理事国としての責任が問わ
れるところだが、世論も自由
なメディアも存在しない国柄
からか、朱鎔基政府活動報告
でも国際情勢に関する部分は
きわめておざなりなものであ
った。そこにはもっぱら当面
の国際情勢を「大国外交志
向」の自己の世界戦略に有利
に運ぼうとする姿勢ばかりが
目立っていて、北朝鮮の危険
な火遊びにたいしても、社会
主義友邦として責任ある対応
を示す姿勢は皆無であった。
国際社会はまたまた中国を頼
りにするわけにはゆかない。
(なかじま みねお)